

■ バチカン図書館に収蔵された日本史関連史料の謎に迫る！ ■

「KU-ORCAS」事業成果報告会を開催

【日 時】 3月24日(金) 13:30～15:30 【場 所】 千里山キャンパス 以文館4階セミナースペース

関西大学アジア・オープンリサーチセンター (KU-ORCAS) ではこのたび、クラウドファンディング事業成果報告会「バチカン図書館に収蔵された日本史関連史料の謎に迫る！」を3月24日(金)に千里山キャンパスにて開催します。

本件の
ポイント

- ・1933年に書家の高橋松願が教皇ピウス11世に寄贈した日本の古写経の鑑定結果について報告
- ・元代の写経である紺紙金泥の美しい『華嚴経』巻五十六(折帖、尾欠)の調査結果について報告
- ・太平洋戦争関係の文書(松岡洋右と東條英機に関するもの)の調査の今後について報告

KU-ORCAS では、クラウドファンディングなど様々な支援のもと、バチカン図書館収蔵日本関係史料の研究を進めています。2022年9月からはコロナ禍で中断していた現地(バチカン図書館)での研究調査活動を再開。昭和戦前期に活躍した新潟の書家、高橋松願(しょうご)が1933年に教皇ピウス11世に献呈した古写経、および古写経の献呈理由を述べた献呈添状11点からなる史料群等の調査・鑑定を行いました。

献呈添状の中で、高橋松願ほどの古写経も史料価値が高いと断じていますが、果たしてそれは真実なのか。3月24日の研究成果報告会では、日本古写経研究所所長の落合俊典氏ならびに、本学の内田慶市名誉教授、国際日本文化研究センター機関研究員の小川仁氏らが調査結果を報告します。

<KU-ORCAS「クラウドファンディング事業成果報告会」の概要>

【日 時】 3月24日(金) 13:30～15:30

【場 所】 千里山キャンパス 以文館4階 セミナースペース

【プログラム】

○開会・挨拶/内田 慶市(関西大学名誉教授)

二階堂 善弘(KU-ORCASセンター長、関西大学文学部教授)

○調査報告①:新潟とバチカンにかかる橋～書家・高橋松願の古写経献呈をめぐる

／小川 仁(国際日本文化研究センター機関研究員)

○調査報告②:バチカンに眠る日本古写経と中国元王朝の宮廷写経

／落合 俊典(日本古写経研究所長、国際仏教学大学院大学教授)

【報告内容】※予定

- ・1933(昭和8)年12月に新潟の書家・高橋松願が教皇ピウス11世に寄贈した日本の古写経について
- ・1345(元の至正5)年に元王朝の皇帝・皇后・太子のために書写された八十華嚴経について
- ・太平洋戦争関係の文書(松岡洋右と東條英機に関するもの)について



(上) 現地調査を行う内田慶市名誉教授(左)ら

(下) バチカン図書館内観

※本件の取材をご希望の方は、お手数ですが下記までご連絡をお願いいたします。

本件に関するお問い合わせ先

関西大学 総合企画室 広報課 担当:寺崎、中村、木田

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 Tel.06-6368-0201 Fax.06-6368-1266

www.kansai-u.ac.jp